



ドラッグストアでのコロナワクチン接種

北陸銀行 国際部
 ニューヨーク駐在員事務所
 秘書 内間 洋子

ニューヨーク州では5月13日から、12歳以上の全州民が新型コロナウイルスワクチン接種の対象となっています。5月26日現在、成人(18歳以上)市民の55%が必要回数の接種を完了しているそうです(ファイザーとモデルナは2回接種、ジョンソン&ジョンソンは1回接種)。

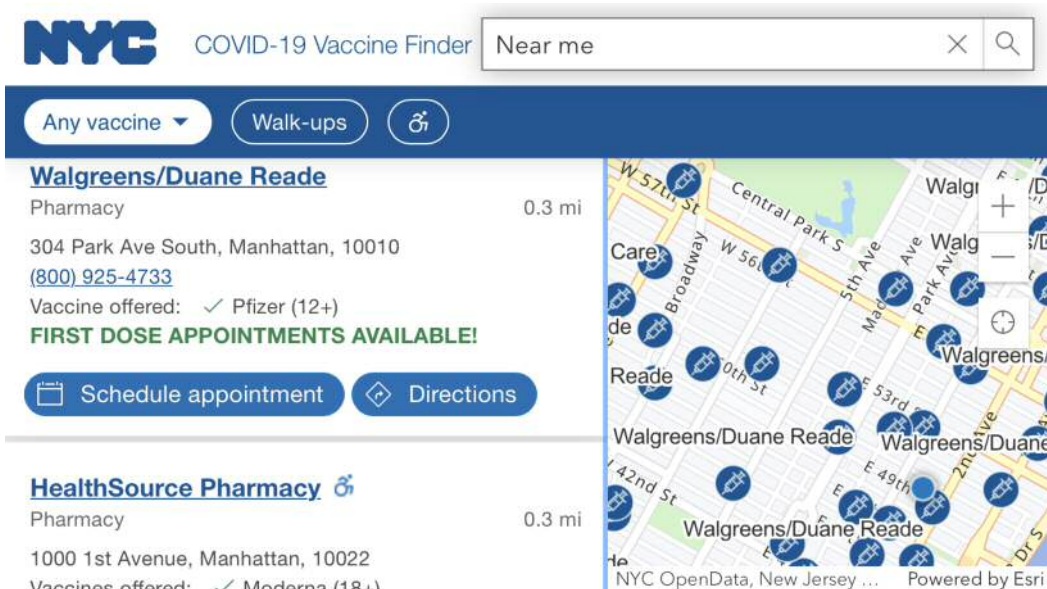
バイデン大統領は5月4日、「7月4日の独立記念日までに全米の成人の70%がワクチンを少なくとも1回接種し、1億6千万人が接種を完了することを目指す」と発表しましたが、5月末現在、既に10州がその目標を達成しています。ニューヨーク市では、人口の76%にあたる600万人の成人への接種をスピーディーに実施するため、接種実施場所の確保に尽力しています。

病院、診療所などの医療機関に加え、1日に1,000人の接種が可能なイベント施設、ヤンキースやメッツのスタジアム、博物館、学校、老人ホーム、教会、公民館等の施設が使用されていますが、今回注目されたのが、全米に150,000店あるドラッグストアチェーン店です。CVS/ファーマシー(9,962店舗)やWalgreens(9,277店舗)などの大型チェーン店は、日用雑貨食品販売と薬局業務に加え、2000年からはインフルエンザや溶連菌感染症などのウイルス感染テスト、さらにインフルエンザの予防接種サービス等を行ってきました。そのため、今回の行政からの新型コロナウイルスのPCR検査やワクチン接種要請にも迅速に対応できたようです。



【NY市内 ドラッグストア店内の様子。
 奥のスペースで常駐の薬剤師がワクチンを接種】

5月末現在、ニューヨーク市では、268カ所のドラッグストアにおいて毎週26,500人に接種可能な状態となっています。これらのドラッグストアチェーンの内、大都市のオフィス街にある2,000店舗には、Retail Clinicと呼ばれる診療所も併設されており、軽い風邪などの重篤でない疾病に対しては年中無休(8:00~19:00)で診察してくれる上、同じ店内で薬を受け取ることができます。近年は、オンライン診療や薬の宅配サービスも行っています。



【NY市のワクチン接種場所検索サイトより。接種可能な近隣のドラッグストアやクリニックが表示される】

このように、アメリカでは街中のドラッグストアがコロナ以前からインフルエンザの無料ワクチン接種を行うなど、公衆衛生の重要なインフラとなっていた経緯があり、今回のコロナ禍においても、（はじめのうちはなかなか予約が取れませんでした）ワクチンの十分な配布があれば即座に周辺住民へのワクチン接種場所として機能できたことが、想定以上のスピードでワクチン接種を推進できた一つの要因だと思われます。日本では、ようやく政府主導の大規模会場などが開設され、高齢者・医療関係者を中心に接種が進んでいるようですが、「打ち手不足」が課題となっている中、アメリカに倣って薬剤師が常駐するドラッグストアでも接種を進める等、機動的に対応できる制度を整えてはどうでしょうか。

以上

<ご注意> 文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
((株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp